



## 幼穂形成期を迎えています！

生育の進度は平年に比べて3日程度早く、生育の早いほ場で幼穂形成期を迎えています。当面は次のことに注意して生育管理を行いましょう！

### 【幼穂形成期の確認】

ほ場から生育が**中位な株**を3~5株選び、草丈の一番長い茎（主茎）を採取し、**茎の基部**をカッター等にて縦半分に切断する。

⑨ 生育が進みがちな**畦周辺**や、生育が遅れ気味な**水口付近**からは選ばない。

**幼穂長**が平均で **2mm**に達したときが、「**幼穂形成期**」になります（図1）。



図1 幼穂形成期の確認

### 幼穂形成期後の深水管理の実施！

【**前歴期間**】～幼穂形成期から**10日間**（花粉が形成される時期）～

水深は最初5cm程度とし、徐々に水深を深くして、10cm程度にしましょう（図2）  
入水は**夜間から早朝**にかけて行い、昼間は必ず止水にし、水温の維持・上昇を図りましょう。

【**冷害危険期**】～前歴期間後の**7~10日間**（花粉の退化を防ぐ時期）～

水深は18~20cmとしましょう（図2）。

冷害危険期の目安は葉耳間長が±5cmの時です（図3）。

冷害危険期に低温（耐冷性「強」の品種で15~17℃）に晒されると**花粉の発育が不十分**となり、**不稔粒が多発**し収量が低下してしまいます。

※参考：ななつぼし：耐冷性「強」、ゆめぴりか：耐冷性「やや強～強」

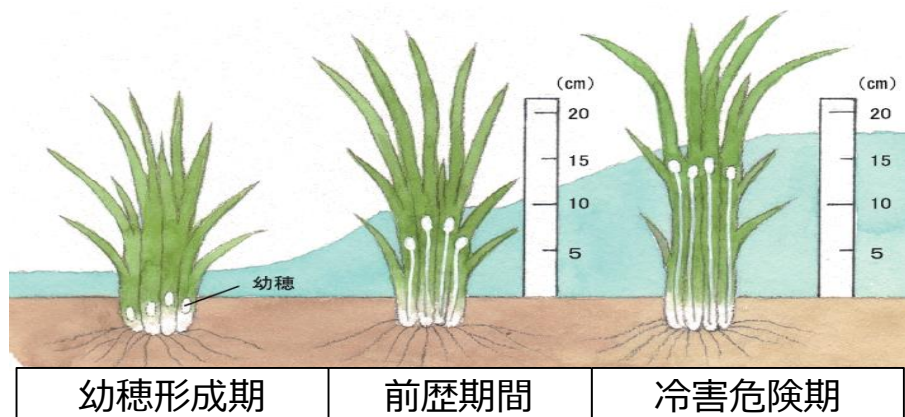


図2 幼穂形成期から冷害危険期までの水管理

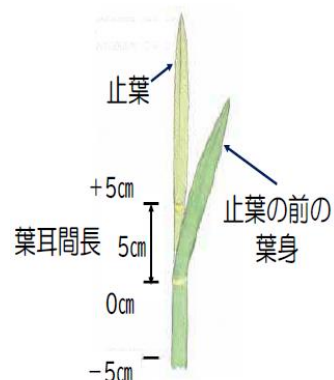


図3 葉耳間長の見方

**心にゆといをもって農作業事故を未然に防ぎましょう！**